

こども

Photographs of children

の情景

原風景を求めて

The child within us

開館時間=10:00-18:00 [水・金は20:00まで] 入館は開館の30分前まで [※最新の写真情報はお問い合わせください]
休館日=毎週月曜日 [月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日は休館] 会場=東京都写真美術館3階展示室
主催=東京都 東京都写真美術館 協賛=凸版印刷株式会社 協力=株式会社講談社



2011 9.24(土) - 12.4(日)

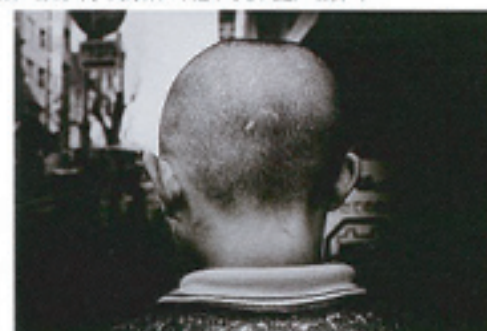
恵比寿ガーデンプレイス内 東京都写真美術館 www.syabi.com

平成二十三年度 コレクション展

【真田真樹】左より 藤田正治 / 「白い風」より / 1981年、大島洋 / 津波の町2 大迫 / 1979年



キナブラスキ
古着のポートレート no.7 / 1994年



森山大通
少年 / 1979年



藤井隆子
「Sigh」より ホーム・アローン、東京 / 2007年



奈良原一高
「静寂した時間」より 二つのサンタクロース / 1972年



須田一政
「風姿若松」より 秋田・湯沢 / 1976年



川内倫子
「うたたね」より / 2001年

この展覧会は当館の豊富なコレクションから、こどもを描き出した作品の数々を「こどもの情景 原風景を求めて」というテーマで紹介いたします。展示は、こどもが登場する写真、こどもの世界を反映した写真がもつ共通性や関連性に着目し、たくさんの「情景」に分類する構成になっています。

写真家たちは、こどもの集まる場所に引き寄せられ、こどもとの出会いをとらえ、走り回り、遊びに夢中になるこどもの姿、純粋な表情や瞳の輝きに魅了されます。被写体としてのこどもは、生命のエネルギーを感じさせ、写真家の撮影意欲や想像力を触発するものです。時代も撮影場所も様々な「こどもの情景」は、いくつもの共通する感覚や感情でつながっています。

写真を見る私たちにあって、見知らぬこどもの姿、知らないはずの光景に懐かしさを感じるのはなぜでしょうか。私たちはそこに自分自身のこどもの頃の記憶やこどもと過ごした思い出を重ねて見ているのではないのでしょうか。だれもがむかしはこどもだった。私たちは、その当たり前のことを忘れてしまいがちです。たくさんの情景のなかを旅するように会場をまわってみてください。そこでは、あなた自身の分身と出会い、忘れてしまった風景をみつけることができるかもしれません。こどもをめぐる写真表現をたどることは、心の原風景をさがすことでもあるのです。

こども

Photographs of children

の情景

原風景を求めて

The child within us

【観覧会構成】こどもの集まる場所 / 出会いの瞬間 / たたずむ / 風 / 風景としてのこども / 走る、とぶ、ころがる / 遊びの世界 / 学校の情景 / 紙芝居を見つめる / 笑顔 / こどもの瞳 / 赤ん坊 / 夜間 / 私生活 / どこかの誰か / 懐かしい情景 / 心象風景 / 大人の中のこども

【観覧料】一般500(400)円 / 学生400 (320)円 / 中学生・65歳以上250 (200)円 ※()は65歳以上の団体料金 ※東京都写真美術館友の会会員、小学生以下は20円引き ※お持ちの方とごの介護者は無料 ※前3名様は65歳以上無料

【担当学芸員によるフロア・レクチャー】会期中の第2、第4会場は午後4時より、担当学芸員による展示解説を行います。 ※本展覧会の平等 (当日有償) をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

【公式ガイドブック】「こどもの情景」講談社刊 定価1800円(税別) 東京都写真美術館ミュージアムショップ ナビック・バイアーンにて販売

東京都写真美術館 www.syabi.com

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3
恵比寿ガーデンプレイス内 TEL.03-3280-0099

■ 東京都写真美術館は、東京都写真美術館より徒歩10分。
■ お車のご来館の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。

